

2015年11月4日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ歴史の検証』

第42回 大前 千代子 氏

(障害や種目の垣根を越えて生きるパラリンピアン)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:小野清子 以下:SSF)は、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々にお話を伺い、スポーツの価値や意義を検証、あるべきスポーツの未来について考えるスペシャルサイト「スポーツ歴史の検証」を連載しております。本年度はパラリンピアンや、ご自身の活動をとおして障害者スポーツをけん引してこられた方にフォーカスを当て、今回は大前千代子さんにご登場いただきます。

幼少期に下半身まひとなった大前さんは、大学卒業後にアーチェリーと出会い、1980年アーヘンパラリンピックに出場、金メダルを獲得。その後、31歳で車いすテニスに転向すると、1996年アトランタ大会から4大会連続出場を果たします。現在は日本車いすテニス協会会長なども務められている一方で現役のプレーヤーとしても活動。障害や年齢の垣根なく活動されている大前さんの強さに迫ります。山本浩氏をインタビュアーに、障害者を取り巻く日本のあるべき姿などについてもお話を伺いました。SSFウェブサイトでの公開詳細は以下のとおりです。ぜひともご覧ください。

『日本車いすテニス界の道をつくった開拓人生』

大前 千代子 氏

【公開日時】2015年11月4日(水)10:00 一斉公開

【URL】<http://www.ssf.or.jp/history/>

笹川スポーツ財団 歴史の検証 で検索ください

【主な内容】活発で負けず嫌い 養護学校ではガキ大将/障害のコンプレックスを払拭できた大学生活
1990年代前半の海外と日本とのレベルの差/40歳でパラリンピックの舞台に復帰
現在の日本の車いすテニス 強みと課題/2020年とその先へ 車いすテニスの展望 ほか

<プロフィール>

大前 千代子 (おおまえ ちよこ) 氏

1956年広島県出身。1歳半でポリオを発症し、下半身まひとなる。大学卒業後にアーチェリーに出会い、1980年アーヘン大会、アーチェリーで金メダル、陸上競技のスラロームで銅メダルを獲得。

31歳で車いすテニスに転向し、1996年アトランタ大会、2000年シドニー大会の女子シングルス、女子ダブルスに出場。2004年アテネ大会で女子ダブルス4位となり、日本女子の最高順位となる。

日本車いすテニス協会会長、大阪車いすテニス協会会長を務めるかたわら、現役選手としても活動。

山本 浩 (やまもと ひろし) 氏

1953年生まれ。スポーツ評論家。NHK在職中はエグゼクティブアナウンサー、解説委員(スポーツ・体育分野専門)として活動。現在は法政大学スポーツ健康学部教授を務める。

<スポーツ歴史の検証>概要

【企画制作】公益財団法人 笹川スポーツ財団

【後援】文部科学省、東京都、公益財団法人 日本体育協会、公益財団法人 日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス

この件に関するお問合せ先

笹川スポーツ財団 経営企画グループ:古坂(ふるさか)

TEL:03-5545-3301 info@ssf.or.jp